

薬剤師よろず悩み相談室

今回の相談は、一包化に取り組みたいけれど患者さんや医師からのさまざまな要望に応えきれない場合の対応です。現場で働く薬剤師であれば、誰しものが直面したことがある問題ではないでしょうか。ベテラン薬剤師にご自分の体験を含め、実践的なアドバイスをいただきました。

一包化に対するさまざまな要望にどう応える？

最近が高齢者の患者さんから「一包化にしてほしい」とのご要望をいただくことが多くなりました。一包化は医師の指示のもとで可能ですが、問題はその方法です。医師によって「これは一包化にしないで」とか「薬の効能によって分けてほしい」とか、その要望はさまざまです。また、医師や患者さんは用法どおりにすべての薬を一包化できると思っていますが、診療報酬の点数が取れないこともめずらしくありません。患者さんのご要望にお応えできないときは、きちんと説明しているつもりですが、「患者の意見を聞けないのか」と怒られることもあります。どうすれば円滑に対応できるでしょうか。（福岡県：薬局薬剤師）

回答へ

浜田康次（日本医科大学千葉北総病院薬剤科医薬品情報室）

薬のプロフェッショナルとしての自覚を持った対応を

答える人 浜田康次（日本医科大学千葉北総病院薬剤科医薬品情報室）

1. 一包化調剤が始まったのは1980年代から

日本で「一包化調剤」が始まったのは、病院薬剤師がクリニカル・ファーマシーを掲げて病棟に進出した1980年代だと思います。1回服用分の薬をPTP包装のまま与薬車にセットする「ユニット・ドーズ方式」が最初で、ナースがホチキス留めをする従来の「薬袋方式」から大変身しました。その後、自動錠剤包装機が開発され、バラ錠のまま一包化する「ワン・ドーズ方式」が主流になりました。しかし、最近では入院期間の短縮などにより「薬袋方式」による自己管理が増えています。

第十二改訂『調剤指針』によると、正しくは「1回量包装調剤」（One Dose Package）。錠剤等を1回の服用時点ごとに分包する調剤とあります。高齢者や手指が不自由な人にはとても有用ですが、?治験薬、?麻薬・覚せい剤、?極度に光に不安定な薬剤、?極度に湿度に不安定な薬剤、?下剤など、症状に応じて自己調節する薬剤は一包化しないことが望ましいです。

2. 「ノー」と言う前に「ホスピタリティ」を

一包化の問題点は、手間のかかることです。患者さんからのさまざまな要望も、調剤が忙しいときには本当につらいものです。これに関して参考にしたい概念に「ホスピタリティ」があります。ホテル業界では、以前から導入されています。リッツ・カールトンやペニンシュラなどの超一流のホテルでは、従業員に一定の権限を与え、マニュアルによる杓子定規な対応はしないそうです。たとえば、満室でも「ノー」というのではなく、「差し支えなければ、近くのホテルをご紹介しましょうか」と提案型の対応をします。確かに、調剤業務には、内規通りの調剤が求められます。しかしながら「対応」に関しては、一考する余地があるのではないかと思います。

ホスピタリティとは、集落外の異邦人を共飲共食により「もてなす」ことで、原義は「客人の保護」。ラテン語のホस्पスから派生し、ホテル、ホスト、ホスピタルも同義語です。エトルリア語のセルボス（奴隷）が語源の「サービス」とは性格を異にします。患者さんへの対応は、年老いた親に接するような「心配り」が大事です。「心配り」とは、文字どおり相手のことを思いやり、「心配」することです。

3. 「ウィークリー・ドーズ・パック」を使った新しい調剤

米国のコミュニティ・ファーマシーにおける調剤は、1種類のバラ錠をビンに入れ、飲み方を書いたラベルを貼って手渡します。日本のようなPTP包装はありません。しかし、ナーシング・ホームなどでは、ブリスターパックに錠剤をセットして与薬しています。

最近、日本でもこれと同様の「ウィークリー・ドーズ・パック」が開発されました。大きさは縦27センチ、横18センチで、1日4回（朝、昼、夕、寝る前）×7日分が入ります。ポケット部に錠剤を入れて、剥離紙のシール部を貼り合わせれば、出来上がり。飲むときは、該当するシートを指で押し破って服用します。

PTP包装を大きくしたようなイメージですが、専用の道具は必要ありません。材質は卵のパックと同じPETで、収納部に約10錠入ります。透明なので、調剤時の鑑査も楽です。薬の飲み忘れなど一週間の服薬状況が一目で把握できます。患者さんに提案することで、コンプライアンス（服従的な服薬）がアドヒアランス（自発的な服薬）に変わることもあると思います。

ウィークリー・ドーズ・パック

4. 個々の患者の状況に合わせた適切な投与方法を考える

一包化は調剤業務の基本です。患者さん個々の状況に合わせた適切な投与方法を考える必要があります。画一的ではなく、個別の対応が重要になります。薬剤師としてのフィロソフィーが問われているように思います。

質問へ戻る

薬立つ話

● 特別企画

薬立つ話

● 現場ルポ

● なるほど!! 薬立つ講座

● 薬剤師よろず悩み相談室

● 今さら聞けない専門用語

● スクランブル交差点

● 私と“薬局”（患者・市民の声）

● 読者の広場

● おススメ 薬立ちサイト

● トップページ

2008年2月号

(C) Copyright 2007 KYOWA HAKKO KOGYO Co., Ltd. All rights reserved.